

# 筑波大学新聞

## 第381号

編集責任  
筑波大学新聞  
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail  
shinbun@  
un.tsukuba.ac.jp  
月刊

発行所  
筑波大学  
茨城県つくば市  
天王台1-1-1

### 注目記事

- 自動運転バスキャンパス走る
- 管弦楽団プロムナードコンサート
- 室内テニス吉本2冠中村単優勝
- 学内に「セーフアーススペース」
- 若者が日韓交流でアイデア競う

11 10 9 5 2

### 特集

春から新天地へ 6・7  
羽ばたくアスリート

### ミニ特集

退職教員4人に聞く 3  
研究者・教員人生の軌跡

## 筑波大マレーシア分校 9月に開校

### 「課題解決型」教育を実践



筑波大マレーシア分校が入る国立マラヤ大の「Wisma R&D」棟=マレーシア分校設置準備室提供

筑波大は1月25日、マレーシアの首都クアラルンプールに設置予定の海外分校の教育課程が同国の政府機関「マレーシア資格機構」の認定を受けたと発表した。筑波大の学位を授与できる「学際サイエンス・デザイン専門学群」として新設する。今年9月に開校予定で、国内の大学が日本の学位を得られる学主課程を海外に設置するのは初めて。日本型高等教育の海外展開の先駆けとしても注目されそうだ。

同専門学群はクアラルンプールに設置予定の海外分校の教育課程が同国の政府機関「マレーシア資格機構」の認定を受けたと発表した。筑波大の学位を授与できる「学際サイエンス・デザイン専門学群」として新設する。今年9月に開校予定で、国内の大学が日本の学位を得られる学主課程を海外に設置するのは初めて。日本型高等教育の海外展開の先駆けとしても注目されそうだ。

地球規模の課題に取り組み、グローバルな人材を育成する。現地で4年間の課程を修了すると、筑波大の学位が授与される。1学年の定員は40人。今年度は20名、事務職員5人を現地配置する。2018年11月に同国の型職業倫理の涵養「一日」

(青野心平)第2類1年

は、ない体育の授業も必修化する。現地で4年間の課程を修了すると、筑波大の学位が授与される。

## 被災学生へ緊急経済支援

### 能登半島地震で

筑波大は、今年元日に起きた能登半島地震で被災した学生が困難になった学費を支援する緊急経済支援を行う。要件に該当する学生は、生活費や授業料を免除する。なお、これに加え、日本学生支援機構(JAS)も併せて利用できる。

SSO)や筑波大が行っている現行の一時金支給制度も併せて利用できる。筑波大の調べでは、福井、石川、富山、新潟出身の学群生・大学院生は合わせて639人。筑波大生の被災状況については調査中だが、2月5日時点で5人の学生から実家が損壊したなどの報告・相談があった。まずは今年度分の申請受け付けを開始しており、支援対象者には、今年1〜3月まで毎月5万円を支給し、学生宿舎料を免除する。また、今年4月から来年3月までは、これらの措置に加え、入学金と授業料も免除する。ただし、毎月の支援金は、被災の状況に応じて支給額を決める。

永田恭介学長は1月25日の定例記者会見で被災し、絶望感に襲われている学生に修学支援をすることが重要だ。最大で1年3カ月分の生活費支援を検討している」と話した。(青野心平)

被災者への支援は、家族や家をなくしたショックや避難生活による心身の不調に陥る人が増える。また、処方薬が切れ精神疾患が悪化するケースもある。DPAT隊員らはそうした被災者の心のケア活動にあたった。

第2次隊長を務めた太刀川弘和医師(医学医療系・教授)は「現地では、数万人の被災者が避難生活を続けていた。ライフラインや交通網復旧のめどが立たない状況で、心のケアも今後中長期的に必要だ」と話した。

これらに加え、JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)も被災地で支援にあたった。長期の避難生活で日常的に体を動かす機会が減ると、身体機能や認知機能が低下しやすくなる。その予防と自立生活の再建に取り組むのがJRATで、筑波大からも医師や理学療法士の派遣が予定されている。

### 附属病院の医療チーム能登で活動

#### 今後も中長期的に支援

今年元日の能登半島地震では、筑波大附属病院の医師らが被災地に派遣され、支援活動にあたった。現地では医療計画の立案や被災者のメンタルケアなどの業務に従事した。今後も、被災地への長期的な医療支援が検討されている。

筑波大附属病院は茨城県神医療チームを派遣した。の要請を受け、災害発生直後の救命医療を担うDMA T(災害派遣医療チーム)と被災者の心のケアなどを担うDPAT(災害派遣精神)

筑波大附属病院は茨城県神医療チームを派遣した。の要請を受け、災害発生直後の救命医療を担うDMA T(災害派遣医療チーム)と被災者の心のケアなどを担うDPAT(災害派遣精神)

被災者の住居内で活動するDPAT隊員ら(1月19日、石川県珠洲市) = 太刀川教授提供

震災では、家族や家をなくしたショックや避難生活による心身の不調に陥る人が増える。また、処方薬が切れ精神疾患が悪化するケースもある。DPAT隊員らはそうした被災者の心のケア活動にあたった。

第2次隊長を務めた太刀川弘和医師(医学医療系・教授)は「現地では、数万人の被災者が避難生活を続けていた。ライフラインや交通網復旧のめどが立たない状況で、心のケアも今後中長期的に必要だ」と話した。

被災者への支援は、家族や家をなくしたショックや避難生活による心身の不調に陥る人が増える。また、処方薬が切れ精神疾患が悪化するケースもある。DPAT隊員らはそうした被災者の心のケア活動にあたった。

第2次隊長を務めた太刀川弘和医師(医学医療系・教授)は「現地では、数万人の被災者が避難生活を続けていた。ライフラインや交通網復旧のめどが立たない状況で、心のケアも今後中長期的に必要だ」と話した。

これらに加え、JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)も被災地で支援にあたった。長期の避難生活で日常的に体を動かす機会が減ると、身体機能や認知機能が低下しやすくなる。その予防と自立生活の再建に取り組むのがJRATで、筑波大からも医師や理学療法士の派遣が予定されている。

除幕式の様子を見守った服部真吾さん(情科3年)は「多くの学生が記念碑や記念樹を眺めながら歩くことになる。50周年を踏まえ、筑波大のこれからの想う場となればうれしい」と話した。(川上真生、写真)

筑波大は、同政府が要望する「日本文化及び、日本の職業倫理の涵養」一日

本大学の学位授与を念頭に準備を進めてきた。昨年8月には、筑波大が文部科学省に提出していた設置計画が、同省の大学設置・学校法人審議会の審査を受け、「設置を可とする」となっていた。

真貴教授(生環系)は「自然災害対策やインフラ整備など、マレーシアの地球規模課題を解決していく人材を育成したい。卒業生が日本企業に就職したり、日本の大学院に進学したりすることも期待できる」と今後の展望を語った。

「朋有り 遠方より来たる また樂しからずや」。孔子はかつて「同じ志を持つ友人(朋)が遠くから来て、語り合うことはなんと喜ばしいことか」と言った▼コロナ禍にそんな楽しみを奪われた。高校2年時の1年間はほとんど登校できず、学校行事は全て中止された。友人と面と向かって話すこと、部活動でチームメイトと一緒に汗を流すこともかなわなかった▼新型コロナウイルスの5類移行を受け、今年1月に20歳の節目を祝った高校の同窓会が催された。2年ぶりに再会した友人たちは全国各地の大学に散らばり、集まる様子はながら「遠方より来たる」だった。近況などを報告し合った後も会話は途切れず、

あつという間に時間が過ぎた。対面での会話の楽しさを知った▼本紙の記事を執筆するため、取材を依頼する際には今も「オンラインでも対応できます」という一文を添える。しかし、できれば、直接会って取材をしたいと思っている。相手の話を聞きつつ、その表情や身ぶりから「他に何か聞けることはないか」「ここが重要なポイントのはずだ」などと考えられるからだ▼孔子の時代にはインターネットがなく、遠く離れた友人と交流すること自体が特別だった。今は相手が海外にいてもオンラインで簡単に交流できるようになったが、直接会って話し、考えを共有する楽しさは今も昔も変わることはない。だからこそ、これから対面取材を大切にしていきたい。

「朋有り 遠方より来たる また樂しからずや」。孔子はかつて「同じ志を持つ友人(朋)が遠くから来て、語り合うことはなんと喜ばしいことか」と言った▼コロナ禍にそんな楽しみを奪われた。高校2年時の1年間はほとんど登校できず、学校行事は全て中止された。友人と面と向かって話すこと、部活動でチームメイトと一緒に汗を流すこともかなわなかった▼新型コロナウイルスの5類移行を受け、今年1月に20歳の節目を祝った高校の同窓会が催された。2年ぶりに再会した友人たちは全国各地の大学に散らばり、集まる様子はながら「遠方より来たる」だった。近況などを報告し合った後も会話は途切れず、

あつという間に時間が過ぎた。対面での会話の楽しさを知った▼本紙の記事を執筆するため、取材を依頼する際には今も「オンラインでも対応できます」という一文を添える。しかし、できれば、直接会って取材をしたいと思っている。相手の話を聞きつつ、その表情や身ぶりから「他に何か聞けることはないか」「ここが重要なポイントのはずだ」などと考えられるからだ▼孔子の時代にはインターネットがなく、遠く離れた友人と交流すること自体が特別だった。今は相手が海外にいてもオンラインで簡単に交流できるようになったが、直接会って話し、考えを共有する楽しさは今も昔も変わることはない。だからこそ、これから対面取材を大切にしていきたい。

あつという間に時間が過ぎた。対面での会話の楽しさを知った▼本紙の記事を執筆するため、取材を依頼する際には今も「オンラインでも対応できます」という一文を添える。しかし、できれば、直接会って取材をしたいと思っている。相手の話を聞きつつ、その表情や身ぶりから「他に何か聞けることはないか」「ここが重要なポイントのはずだ」などと考えられるからだ▼孔子の時代にはインターネットがなく、遠く離れた友人と交流すること自体が特別だった。今は相手が海外にいてもオンラインで簡単に交流できるようになったが、直接会って話し、考えを共有する楽しさは今も昔も変わることはない。だからこそ、これから対面取材を大切にしていきたい。



記念碑を除幕する出席者ら(昨年12月22日、松美池前)

除幕式の様子を見守った服部真吾さん(情科3年)は「多くの学生が記念碑や記念樹を眺めながら歩くことになる。50周年を踏まえ、筑波大のこれからの想う場となればうれしい」と話した。(川上真生、写真)

## 開学50周年 松美池に記念碑と記念樹

### 校友会が寄贈

筑波大の開学50周年記念碑・記念樹の除幕式が昨年12月22日、筑波キャンパスの松美池前で行われた。記念碑・記念樹ともに筑波大校友会(会長・江崎玲於奈元学長)が、創設151年開学50周年を記念して寄贈した。式典には永田恭介学長や校友会の吉岡高志副会長らが出席した。記念碑に使われたのは筑波山から産出される筑波石(はんれい岩)で、底石と礎石は珍重されている。記念碑には校章の「五三の桐」が刻まれている。

永田学長は「桐はめでたい出来事を招く瑞相の木で、次なる50年の一里塚としてふさわしい。ペダストリアンデッキを通る学生を見守り続けてほしい」とあいさつした。

除幕式当日は、この日を境に昼間の時間が長くなる冬であった。吉岡副会長は「陽来復となるめでたい日に除幕式をするのができ光栄だ。(記念碑や記念樹が)開学100周年に向けて大学や学生と共に歩む存在となってほしい」と話した。

除幕式の様子を見守った服部真吾さん(情科3年)は「多くの学生が記念碑や記念樹を眺めながら歩くことになる。50周年を踏まえ、筑波大のこれからの想う場となればうれしい」と話した。(川上真生、写真)



# 退職教員4人に聞く 教育者・研究者 人生の軌跡

筑波大は医学から体育、芸術まで多様な分野の教員がそろったユニークな総合大学だ。今春もその中から多くの教員が定年退職を迎える。教育者・研究者として多方面で活躍してきた教員たちはどのような人生を送ってきたのか。4人の教員にこれまでの軌跡を聞いた。(川上眞生・社会学類、山本貴世・結城希二・国際社会学類、青野心平・第2類)

## 資料を読み解き 現場を巡る

ドイツ企業・労働史が専門。工業化前後のドイツで、働き方や企業と人との関わりがどのように変化してきたのかを研究してきた。近年は日独の現在の労働環境でもないより良い社会システムの比較分析も行っている。東京都文京区出身。同区内の桜蔭中学・高等学校を経て東京大文科三類へ。石油ショックで父親の会社が倒産。高校時代から郵便局や百貨店でアルバイトを重ね、「人にとっての仕事とは、働くとは何か」を考えた。東大では哲学が西洋史を

## 「自分で考え判断する力」を身に付けて



田中洋子 教授(人社会系・労働史)

志望したが、人々が働いて暮らす仕組みに興味がある。ドイツ研究を始めたのは、社会全体を俯瞰的に捉えるのが、古い歴史資料から当時の働く現場が目に浮かび、「心の中で大興奮していた」と語る。その成果はドイツ企業社会の歴史的形成を論じた論文にまとめられ、博士号を取得。東大経済学部助手を経て、1991年に筑波大社会学系(現人社会系)講師に兼任した。その後、学生から高い人気を誇った世界経済史や欧州経済史の授業に加え、毎年異なったテーマを文獻講読と現場見学の両面から学ぶ田中ゼミを主宰。学生と一緒に国内外どこでも出かけ、各地の現場で学ぶことをモットーとした。32年間にわたるゼミの卒業生は中央官庁やコンサルタンツ会社から起業家、有機農家、歌手までさまざま領域で活躍中だ。2000年代に始めた現代ドイツの企業・労働研究は、社会全体の働く仕組みを日独比較する研究へと展開している。日本のエッセンシャルワーカー(田中洋子編著、旬報社)を昨年秋に出版。NHKなどで大きく紹介された。今後はドイツのベルリン自由大を拠点に研究を続ける。学生には、現場を歩き、人と話し、自分で学び考えることで物事を深く理解できる。そうして身に付けた「自分で考え、判断する力」で混迷の時代を切り開いてほしいと呼びかけた。

## 現場重視の 都市計画研究

地域の課題を理論的に解析しながら、その成果を現場に還元する研究に取り組んできた。青森県三沢市出身。米軍基地が身近な環境で育ったことから都市計画に興味を持った。基地のそばにある広場でよく卓球をし、フェンス越しに基地を眺めていた。「三沢を含め日本の街並みは雑然としていたが、基地内の住宅区画が整然としていて驚いた。規律あるまちをうらやましく思った」といふ。

## 社会課題の本質に迫る



大澤 義明 教授(シス情系・都市計画)

1977年、都市計画を学ぶため、社会学類の1期生として筑波大に入学したが、大学2年時の秋に父

親が心筋梗塞で急死した。47歳の若さだった。3年時に1年間休学し、実家の電気店を手伝った。だが、「地元どこか不自由さがあり、未来を感じられなかった」と話す。そこで、まずは学業に打ち込むことを決めた。大学院は社会学研究科で、施設を人口分布に対応して適切に立地する手法を、人々と施設の距離に着目して数理的に導いた。「データや数学を用い、論理的思考で複雑な事象の本質に迫ることに面白さを感じた」と語る。その後、東京大特別研究員や熊本大助手を経て、91年に講師として筑波大に戻った。93年から1年間はルーバン・カトリック大(ベルギー)の客員教授として海外生活を送った。同大のキャンパスがあるルーバン・ラヌーアは、同大を中心とした学園都市として知られる。街全体が筑波研究学園都市よりコンパクトで、通勤や通学、買い物などは徒歩移動が主流だった。「筑波研究学園都市は広大で、車の使用を前提とした構造に

なっており、まちづくりの提言をする中で参考にした部分が多く、その後に生き残った経験だったと振り返る。近年はつくば市など茨城県内のまちづくりに関わりながら、筑波大の高大連携や産学連携事業などに取り組む。いずれも現場に軸足を置いた活動で、特に若者の視線を重視している。「これからの時代を担うのは若者。若者の意志を反映できる社会にしたい」と話す。退職後は来年度から新設される鹿嶋大千葉県柏市の工学部に教授として着任する。「筑波大で経験した理論と応用を両立させる学際研究を継続し、人とのつながりや社会との関わりを大切に育ててほしい」と意気込む。

## 脳の研究から広がり 障害への対応法など研究

専門は障害科学。光への感受性が高いことから起きる視覚過敏症(アレンシンドルーム)や、計算や推論が難しい算数障害はそれぞれどのような障害なのか。その概念整理と対応法の研究で第一線に立ち続けてきた。実は高校時代は物理、化学や数学に興味があり、九州大理学部化学科に進学。生物の細胞膜の研究に取り組み、その興味は神経系にも広がった。卒業後は血清検査会社を経て、1984年に特殊法人新技術開発事業団(現科学技術振興機構)に入団。細胞膜や脳の情報処理を研究するグループに参加した。これを契機に障害がある



熊谷 恵子 教授(人間系・障害科学)

人の脳の情報処理にも興味を持ち、「彼らの問題を解決しながら研究したい」という思いが生まれた。そこで筑波大大学院教育研究科(修士課程)に入り、院心身障害学研究所(博士課程)では算数障害の研究を始めた。脳卒中などで言語・音声に障害を起し、筑波大着任は95年。その後、在外研究で英国に滞在したことで、視覚過敏症の存在を知った。知能には問題ないが文字を読むのが苦手な子供たちが通う教室を見学し、文字が印刷された紙面を子供たちがカラーフィルムで覆って読む姿に驚かされた。視覚過敏症は、光への感受性が高いため起こる障害だ。光を非常にまぶしく感じる本を読むと文字がよく追えない、ずれて見えるなどの症状が出る。日本ではまだ認知度が低く、対応も遅れていた。帰国後、その人に合ったカラーレンズやカラーフィルムを通して見ることで、目に入る光の量が調節され見えやすくなるなどの対応法を伝え、また、各地の教育委員に努めたい」と語る。

## 「視覚過敏への理解社会に広めたい」

「視覚過敏者は日常的にカラーレンズを着用するが、周囲から奇異の目で見られることもある。彼らをサポートするNPO法人設立や法律整備への働きかけを視野に入れ、視覚過敏者が生活しやすい社会づくりに努めたい」と語る。

## がん治療に 工学技術を応用

医学医療系所属だが、専門は加速器工学。がんの治療や診断に使うX線や陽子線装置の精度管理を主に担ってきた。2019年から陽子線医学利用研究センター長を務めている。鹿児島県出身。幼い頃から機械が好きで、その仕組みを知るために何でも分解してしまっ子供だった。高校生の頃は、化石燃料の枯渇によるエネルギー不足が心配されており、九州大工学部応用原子核工学科に進学した。「原子力発電や核融合といった新しいエネルギー開発が魅力的だった」と振り返る。学部ではX線の検出器の開発やX線発生装置の製作などを行ったが、そのまま

## 陽子線施設運用を主導



榮 武二 教授(医学医療系・加速器工学)

進んだ同大学院で、加速器に関係する研究に取り組むようになった。1991年に母校の助教となり、加速器の研究を始めた。「学部時代に陽子線装置の精度管理を主に担ってきた。2019年から陽子線医学利用研究センター長を務めている。鹿児島県出身。幼い頃から機械が好きで、その仕組みを知るために何でも分解してしまっ子供だった。高校生の頃は、化石燃料の枯渇によるエネルギー不足が心配されており、九州大工学部応用原子核工学科に進学した。「原子力発電や核融合といった新しいエネルギー開発が魅力的だった」と振り返る。学部ではX線の検出器の開発やX線発生装置の製作などを行ったが、そのまま

教授に転身した。筑波大ががん治療用に陽子線治療用の加速器を開発中だと知り、自ら売り込んだのだ。「学部時代に陽子線治療について調べたことを任せられた。医療用加速器は物理学研究用の機器が多く、それらが高い精度で管理することが求められる。このため、制御用のマイクロコンピュータやソフトウェアを多数組み込む必要がある。「やりがいのある仕事だった」といふ。陽子線は、ピンポイントで照射することで、周囲の組織への影響を避けつつ患部だけを破壊できる。筑波大は世界に先駆け、これをがん治療に応用した。現在は物理学・工学の知識や成果を医学に還元する研究から離れたとしても「医学物理学」を専攻するべきだ」と話す。

2018年からは、X線と陽子線を用いた照射する治療で、適切な照射量を割り出す数理モデルの開発に取り組んだ。「経験がない研究分野だったからこそ、常識を覆す思い切った挑戦ができた」と語る。センター長を務める陽子線医学利用研究センターでは、新しい陽子線治療施設を建設中で、25年秋に稼働予定だ。定年後もメーカーとの共同研究にあたる教授職として、しばらくは新施設の立ち上げに関わるといふ。「筑波大が培ってきた陽子線治療の実績が生かされる施設になるだろう」と期待する。

# 記者の声



野田健祐

## 「一番近くて遠い国」は残念 日韓交流「若者たちの対話が活路開く」

近年の日韓関係はあまり良いものではない。特に「慰安婦」や「徴用工」の問題が取り上げられた2018年以降、日韓関係は「国交正常化以降最悪」といわれるようになった。22年に韓国で政権交代が起きた後は関係が少しずつ回復に向かいつつあるものの、まだどこかに「一番近くて遠い国」という印象は残っている。

私は日本人と韓国人の両親を持ち、6歳まで韓国で過ごした。母とは今も韓国語で話すことが多い。

私は「日韓関係はあまり良いものではない。特に「慰安婦」や「徴用工」の問題が取り上げられた2018年以降、日韓関係は「国交正常化以降最悪」といわれるようになった。22年に韓国で政権交代が起きた後は関係が少しずつ回復に向かいつつあるものの、まだどこかに「一番近くて遠い国」という印象は残っている。

私は日本人と韓国人の両親を持ち、6歳まで韓国で過ごした。母とは今も韓国語で話すことが多い。

# 筑波時評

## ガザ地区戦闘 人々の「抵抗運動」の側面も一刻も早い即時停戦を望む

佐藤麻理絵 助教(中東地域研究・政治学)

人文社会系・助教。京都大学大学院「ア・フリカ地域研究科」修士(地域研究)。日本学術振興会特別研究員、京都大助教を経て2022年に筑波大着任。

昨年10月にパレスチナ自治区ガザ地区でハマスとイスラエル軍の戦闘が始まってから「イスラーム抵抗運動」を意味する言葉の頭文字を取った略称「O」主流派であるファタハとの対立は鮮明となり、07年6月以降ガザ地区を事実支配してきたイスラエルは02年にヨルダン川西岸で分離壁建設を開始し、パレスチナ社会との分離を進めてきたが、ガザ地区においてもコンクリート壁「フェンス」の建設、その先に無人地雷帯を設け、封鎖を強化してきた。

国連やパレスチナ中央統計局によると、ガザ地区の失業率(22年)は47%、若者世代では64%に達し、貧困ライン以下で生活する住民の割合は65%以上を占める。ハマスの攻撃は許されるものではないが、今般のガザ戦争は、長期にわたる占領と抑圧の中で、長年虐げられてきたパレスチナの人々の「抵抗運動」の側面として、さらには人道的な封鎖による経済的困窮を背景とした動きとして理解する必要がある。

他の中東地域でも、「アラブの春」に端を発したリビアでの紛争はサヘル地域南部に波及し、緊張状態が続く。イエメン内戦は、ハマースとの連携を掲げる反政府組織フーシー派による船舶への攻撃を受けて、米英合同軍による攻撃が始まり、新たな段階に到達した。シリア内戦も終結をみない。世界では、一刻も早い即時停戦が望まれる。

# 反射鏡

## 新年度の抱負

まだ冷えない日もあるが、2月4日は立春だった。秋学期は終わりを迎え、いよいよ新年度に向けた準備が始まる。進級や卒業を控えた筑波大生は来年度にどのような期待を抱いているのだろうか。中央図書館前で、「新年度の抱負」について聞いた。

【中谷美稀II人文学類2年、川上真生II社会学類2年】

【日田2年・男性】 将来設計を固める1年に。今年度と同様、よく寝たい。今のところは、大よみで遊ぶ1年にし、学院に進学してポップカルたい。社会に美術を広めるチャイ関連の研究を深めた。芸術支援を学びながら、友いと考えている。今年度は、人と日本全国をままま方向性を見誤らしたり、体調を崩したりして、研究をうまく進められなかった。新しいことに挑戦したい。年度は研究に打ち込み、大と考えている。来年度から学院に進むかどうかを明確に就職活動が本格化する。地震が起きた北陸での災害にできればいい。

【芸専2年・女性】 今年度と同様、よく寝たい。今のところは、大よみで遊ぶ1年にし、学院に進学してポップカルたい。社会に美術を広めるチャイ関連の研究を深めた。芸術支援を学びながら、友いと考えている。今年度は、人と日本全国をままま方向性を見誤らしたり、体調を崩したりして、研究をうまく進められなかった。新しいことに挑戦したい。年度は研究に打ち込み、大と考えている。来年度から学院に進むかどうかを明確に就職活動が本格化する。地震が起きた北陸での災害にできればいい。

【芸専2年・女性】 今年度と同様、よく寝たい。今のところは、大よみで遊ぶ1年にし、学院に進学してポップカルたい。社会に美術を広めるチャイ関連の研究を深めた。芸術支援を学びながら、友いと考えている。今年度は、人と日本全国をままま方向性を見誤らしたり、体調を崩したりして、研究をうまく進められなかった。新しいことに挑戦したい。年度は研究に打ち込み、大と考えている。来年度から学院に進むかどうかを明確に就職活動が本格化する。地震が起きた北陸での災害にできればいい。

## 多子世帯の大学無償化

政府は昨年12月、3人以上の子供を扶養する世帯について、所得制限なしに大学を無償化する方針を打ち出した。「異次元の少子化対策」の一環だ。だが、3人のうち1人が扶養から外れれば対象世帯ではなくなる。また、補助額には上限があり、私立大に進むと賄いきれない可能性が高い。筑波大生はどう受け止めているのか。中央図書館前で聞いた。(結城希II国際総合学類1年、野田健祐II応用理工学類3年)

【国際1年・男性】 は兄と私の2人兄弟で、3人以上の子供を扶養し、援助の対象外となる。少子化している世帯のみが対象なの。要因は子供の教育費だけ、範囲が狭い印象だ。私ではなく、根本的な少子化対策にはならないだろう。

【資源4年・女性】 教育費負担が減って喜ぶ家庭は多いかもしれないが、大学無償化は子供を持つ動機づけにはならないと思う。「自由が制限されるから」を結婚しない理由に挙げる人が多い。これはお金ではなく意識や考え方の問題だ。こうした意識や考え方が変わっていかないと、少子化は止められないのではないかと。

【数学2年・男性】 多少は少子化が改善されるかもしれない。だが、子供を産む段階では、その子供が大学に行くかどうかはまだ分からない。自分が親に代わって子供を育てる環境を提供した方がよいのではないかと。

【数学2年・男性】 自分は将来結婚して、子供もたくさんほしい。少しでも負担を軽減することができるといい話だ。ただ、全国の学生に掛かる学費を国が負担すると、予算規模や財源がどうなるか、安心して子供を産み育てることができなくなるのではないかと。

【生物P後期3年・男性】 けがなく健康に1年を終えたい。昨年は野外調査で木の枝をサンプル採取する時に、はしごを踏み外して足を捻挫してしまった。そのせいで研究が滞ったので、気を付けた。

【理科4年・男性】 来年度から大学院に進学するので、研究を頑張りたい。所属している陸上同好会では幹部を務めており、うまく両立していきたい。



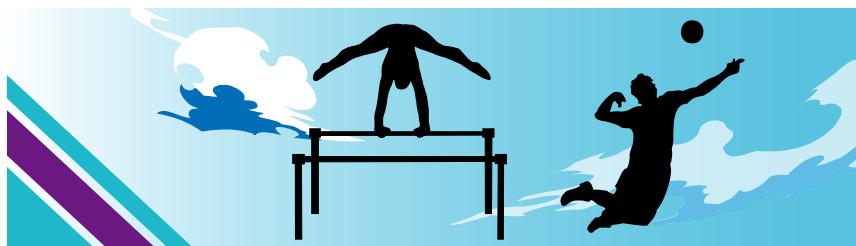
イラスト=藤原総太(社会学類1年)



イラスト=結城希(国際総合学類1年)







バスケットボール



三谷桂司朗(体専4年)
「世代を代表する選手」として期待されている。
広島市出身。小学3年時...



三谷桂司朗選手が試合中にシュートを放つ様子(撮影:東海大青野)

地元広島でプロに

筑波大に入学したのは、留學生に頼らないで日本一を目指すのが魅力だった。
インターハイに出場して...



田中龍馬(体専4年)

柔道
「優勝したい」と考え、教員免許取得と柔道が両立できる筑波大に進学した。
大学生活は2020年4月...

柔道
「優勝したい」と考え、教員免許取得と柔道が両立できる筑波大に進学した。
大学生活は2020年4月...

柔道
「優勝したい」と考え、教員免許取得と柔道が両立できる筑波大に進学した。
大学生活は2020年4月...

柔道
「優勝したい」と考え、教員免許取得と柔道が両立できる筑波大に進学した。
大学生活は2020年4月...

柔道
「優勝したい」と考え、教員免許取得と柔道が両立できる筑波大に進学した。
大学生活は2020年4月...

柔道
「優勝したい」と考え、教員免許取得と柔道が両立できる筑波大に進学した。
大学生活は2020年4月...



アジア大会で金メダルを手にした田中龍馬選手

3兄弟でロス五輪目指す

柔道部内では「選手として結果を残し、手本となる練習態度を示すことで、モチベーションを高めること」を目標としている。
柔道部では「選手として結果を残し、手本となる練習態度を示すことで、モチベーションを高めること」を目標としている。

柔道部では「選手として結果を残し、手本となる練習態度を示すことで、モチベーションを高めること」を目標としている。

Hello! 先端研究



山中勤教授

新潟、長野、山梨、静岡の各県など本州中部の温泉水に、1500万年〜5000年以上も地中に閉じ込められた水が含まれていることが...

山中勤教授は、岩石に長い期間閉じ込められている間に水の安定同位体だけ重い「安定同位体」が存在する。
古い地層に含まれた海水や地下のマグマに由来する水などが混入したものと考えられてきたが、その形成過程などはよく分かっていなかった。

山中勤教授は、岩石に長い期間閉じ込められている間に水の安定同位体だけ重い「安定同位体」が存在する。
古い地層に含まれた海水や地下のマグマに由来する水などが混入したものと考えられてきたが、その形成過程などはよく分かっていなかった。

山中勤教授は「最近、温泉水中の非水成分の割合が日単位で変動する」と報告した。
原因は不明だが、地下深部の何らかの変化を反映しているなら、地震や火山噴火の予測に役立つかもしれない。中央日本以外にも研究対象を広げたい」と話した。(野田健祐 応用理工学類3年)

山中勤教授は「最近、温泉水中の非水成分の割合が日単位で変動する」と報告した。
原因は不明だが、地下深部の何らかの変化を反映しているなら、地震や火山噴火の予測に役立つかもしれない。中央日本以外にも研究対象を広げたい」と話した。(野田健祐 応用理工学類3年)

中央日本の温泉水を調査

地球深層の水循環解明へ期待

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

温泉水の多くは、空から降ってくる雨や雪といった「天水」が起源だ。
そして、天水には酸素と水素の安定同位体の比率に一定の関係がある。

自信を持って社会に飛び立とう!



一般社団法人若漢会筑波事務所 キャリアコンサルタント 瀧下芳彦さん

「エンタリシートはこの手順に従って書く」と面接ではこのように熱く語る。
「就職して5年、同窓会組織である若漢会に移ってからも含めると8年弱の間に対応した個別キャリア相談件数は5800件に達した。その経験から在学生の皆さんに伝えたいことをまとめ、自信を持って社会に飛び立とう!」

「就職して5年、同窓会組織である若漢会に移ってからも含めると8年弱の間に対応した個別キャリア相談件数は5800件に達した。その経験から在学生の皆さんに伝えたいことをまとめ、自信を持って社会に飛び立とう!」



「就職して5年、同窓会組織である若漢会に移ってからも含めると8年弱の間に対応した個別キャリア相談件数は5800件に達した。その経験から在学生の皆さんに伝えたいことをまとめ、自信を持って社会に飛び立とう!」

「就職して5年、同窓会組織である若漢会に移ってからも含めると8年弱の間に対応した個別キャリア相談件数は5800件に達した。その経験から在学生の皆さんに伝えたいことをまとめ、自信を持って社会に飛び立とう!」

「就職して5年、同窓会組織である若漢会に移ってからも含めると8年弱の間に対応した個別キャリア相談件数は5800件に達した。その経験から在学生の皆さんに伝えたいことをまとめ、自信を持って社会に飛び立とう!」

「就職して5年、同窓会組織である若漢会に移ってからも含めると8年弱の間に対応した個別キャリア相談件数は5800件に達した。その経験から在学生の皆さんに伝えたいことをまとめ、自信を持って社会に飛び立とう!」

# 堀口がラートで全日本3連覇

全日本ラート競技選手権が昨年12月16、17日、つくばカシオ(つくば市竹園)で開催された。山梨大准教授(でもある堀口文(大学体育2年)が個人総合優勝し、大会3連覇を達成した。今年7、8月にオランダで開催される世界ラート競技選手権の代表にも内定した。

(金慧欣)

## 世界選手権出場へ

### 体操

ラートはドイツ発祥のスポーツ。2本の鉄の輪を平行につないだ器具を前後や斜めに回転させて演技する。ラートを前後に回転する「直転」、傾けて回転させる「斜転」、回転しているラートに跳び乗って宙返りする「一躍」の3種目がある。

堀口が最初に挑んだのは斜転。バランスを崩す選手が多い中、卓越した操作技術で美しい演技を見せ、この種目の大会歴代最高得点1位となった。

続く跳躍では、「前方屈伸宙返り2分の1ひねり」を成功させたが、ラートの速度を落とすミスも出て3



大会歴代最高得点を得た堀口の華麗な斜転の演技 = 本人提供

位にとどまった。最終種目の直転は堀口が最も得意な種目だ。ラートの頂点で、前回りする高難度の技「前ロー」を成功

させ、こちらも大会歴代最高得点1位となった。世界選手権の日本代表は男女それぞれ5人。今大会の各種目1位と、個人総合上位2人が世界選手権の代表となる。

堀口は「個人総合3連覇が目指したい」と語った。

# プロ内定4選手が会見

「4年間で成長できた」「子供に夢を与えたい」



所属予定チームのユニフォームを着た選手たちと小井土監督(中)(昨年12月25日、大学会館で)

サッカーのクラブ入団が内定した筑波大学蹴球部員の合同記者会見が昨年12月25日に大学会館で開かれた。山内翔(体専4年)、高山沙生(同4年)に共

にJリーグ所属の神戸、瀬良俊太(同4年)にJ3カターレ富山、林田魁斗(同4年)にJ3FC大阪の内定選手4人と小井土監督(体育系・准教授)が登場した。

(山本貴世、写真も。6、7面に関連特集)

## 「技術と精神的に強くなった」小井土監督がエール

### サッカー

筑波大は今年度、関東大学リーグで6年ぶりに優勝。山内、内野航太郎(同1年)、角早志郎(同3年)の3人がU22(22歳以下)日本代表としてアジア大会に出場するなど、個人としての活躍も見られた1年となった。

セントラルMFの山内は主将としてチームをけん引し、関東大学リーグでは最優秀選手(MVP)にも選

# インカレ7年ぶりベスト4

## ライバル明治大に惜敗も

全日本大学選手権(インカレ)が昨年12月7〜24日に開催された。筑波大は7年ぶりにベスト4に進出したが、準決勝で明治大に0-1と惜敗した。明治大が決勝で京都産業大を下し、優勝した。

(山本貴世)

### サッカー

今季の関東大学リーグで6年ぶりに優勝した筑波大は2回戦から登場し、AGフィールド(東京都調布市)で10日に鹿屋体育大と対戦した。

前半30分、コーナーキックからのボールをDF福井啓太(体専3年)が頭で押し込み先制。同37分にもM



明治大のディフェンスをかわしてドリブルする山内 = 筑波大学蹴球部提供

し、FW内野航太郎(同1年)が先発出場した。内野が筑波大の公式戦で戦うのは約5カ月ぶり。昨年はU22(22歳以下)日本代表としてアジア大会に出場し、チーム最多の4得点を決めるなど、準優勝に大きく貢献した。しかし、その後の米国遠征で負傷し、長期離脱していた。

前半は、筑波大が主導権を握る展開が続くも得点にはつながらず0-0で終えた。

後半は開始直後から中京大に押される形になったが、MF加藤玄(同2年)らが粘り強い守備を見せ、失点を防いだ。後半12分、山内の左サイドからのクロスを受けたMF田村蒼生(同3年)がシュート。相手が触れてボールが浮いたところを、

内野が胸でゴールに押し込んだ。アディショナルタイムにもDF沖田空(同3年)のクロスを受けたMF瀬良俊太(同4年)にJ3カターレ富山内定選手がダイビングヘッドで決め、追加点を挙げた。

試合はそのまま2-0で勝利し、前年の借りを返す形となった。内野は「復帰ライバルだ。」

## 女子 初の日本選手権ベスト8

### プロトップに善戦

日本選手権女子の部が昨年12月24〜28日に花巻市総合体育館(岩手県花巻市)で開かれた。筑波大女子は社会人チームを次々に破って初のベスト8に進出。26日に日本ハンドボールリーグ(JHL)所属の大会4連覇中の北國銀行と対戦したが、善戦がなわず、25-37で敗れた。大会は北國銀行が5年連続8回目の優勝を果たした。

(山本貴世)

### ハンド

筑波大は1回戦のG10ck(愛媛県代表)戦を38-23、2回戦のザ・テラス

銀行に主導権を握られた。筑波大は前半3分、この大会から新主将となった伊藤結衣(体専3年)がゴール正面で相手のディフェンスを振り切り、力強いシュートを決めて反撃。同22分には外口若菜(同2年)がゴールキーパーの足の間を通るパウンドシュートでゴールするなど追いすがったが、その後も点差は開き、10-21で前半を終えた。

後半は開始3分に、コート中央から一気に走り込んだ紺谷利紗(同1年)が鋭いジャンプシュートでゴール。紺谷は後半だけで4得点を挙げた。他の選手も果敢な攻めを見せ、後半に限れば15-16と拮抗した試合展開となったが、追い上げはかなわず、25-37で敗退した。

山田永子監督(体育系・准教授)は「シーズンの最後の試合で、チームの集大成として挑んだ。日本リーグの中でも高い実力を持つ相手に対し、多くのシュート機会を作れたことは評価できる」と振り返った。

伊藤は「社会人を相手に3試合も戦うことができ、とても良い経験になった。今後は学生日本一と日本リーグの上位4チームに勝利することを目標に、練習に励みたい」と意気込んだ。



# 吉本が女子単複2冠 中村が男子単優勝

## 室内インカレ



正確なショットでポイントを稼ぎ、男子シングルス優勝を果たした中村=長浜功明さん提供

全日本学生室内テニス選手権(室内インカレ)が昨年12月10〜17日に有明テニスの森公園(東京都江東区)で開かれ、女子シングルスは吉本菜月(体専2年)が初優勝した。吉本は櫻田しずか(同1年)と組んだ同ダブルスでも初優勝し、単複2冠となった。男子シングルスは筑波大生対決を制した中村元(同3年)が初優勝した。筑波大男子の全日本学生タイトル獲得は史上初。(川上真生)

## テニス



吉本は女子シングルスの決勝で大橋麗美華(慶應義塾大)と対戦。昨年8月の全日本学生テニス選手権(インカレ)決勝でも顔を合わせ、勝利していた相手だ。第1セットはラリーで競る展開があったものの、ストレートとクロスを使い分けたショットで相手を左右

に動かし、6-3で制した。第2セットは「相手のミスもあり、気持ちに余裕ができた」と第3ゲーム以降は4連続でゲームを奪い、6-2で試合を決めた。女子ダブルス決勝は、同シングルス決勝終了から約1時間後に始まった。吉本と櫻田がペアを組んだのは今大会が初めて。予選を勝ち抜く中で、連携を深めてきた。



攻撃的なプレーが持ち味の吉本=本人提供

第1セットは、吉本が力強いファーストサーブを入れ、前衛の櫻田が積極的に前へ出るプレーでポイントを重ね、6-3で制した。第2セットは、幸先よく第4ゲームをブレイク。その後は互いにゲームキープを続け、そのまま6-4でこのセットも奪った。

第1セットは、幸先よく第4ゲームをブレイク。その後は互いにゲームキープを続け、そのまま6-4でこのセットも奪った。

吉本は昨年、全日本学生選手権(インカレ)女子シングルスと、団体戦の全日本大学対抗テニス王座決定試合でも優勝し、これで4冠となった。「今季から試合前の準備を人念にし、イメージトレーニングにも取り組んだ。テニスと真剣に向き合ったことが結果につながった」と振り返った。男子シングルスで優勝した中村は第3シード。決勝の相手は第2シードの田中佑(体専2年)だった。第1セットはショットに正確性を欠き、第4ゲームを終えた時点で1-3とリードを許す展開だったが、だが、続くサーブゲームをキープして流れを引き戻すと、3連続でゲームを奪って逆転。そのままこのセットを6-4で制した。第2セットはショットの精度も高まり、第2ゲームから第5ゲームを連続で奪うなど6-3で下した。中村は「学生タイトル獲得が目標だったので素直にうれし。決勝の序盤は緊張でコントロールが乱れた。今後はメンタル面を強化したい」と語った。

6歳の時、地元・秋田県大仙市のスポーツ少年団でバレーボールチームに入った。経験者だった母親の勧めだった。セッターを始めたのは小学4年生の時。母がセッターをしていた影響もあったが、何よりア

### 最高のゲームメーカー目指して

ける練習法になった。U20(20歳以下)日本代表に初選出されたのは3年時のこと。世界大会の初戦先発出場したものは、外からサポートしてくる人たちのありがたさに気付いたという。全日本高等学校選手権(春高バレー)で1年



### 超感覚のセッター 熊谷仁依奈(体専1年)

「人間力が最終的にコートに出る」。古川学園時代に岡崎典生監督に掛けられた言葉をフット

要としてスパイカーの能力を最大限引き出し、試合の流れを大きく動かすセッターになりたいという。更なる頂を目指し、今も飛躍し続けている。(山本貴世II国際総合学類1年、写真は女子バレーボール部提供)

## スポーツの顔

どんなボールもアタッカーが最も打ちやすい形で配球する。その圧倒的なパス回しのセンスに加えて、チームを率いるキャプテンシーにも優れたセッターだ。

昨年11月の全日本学生選手権(インカレ)で4年ぶりの日本一に輝き、関東大学春秋リーグ戦優勝と合わせて今季3冠となった筑波大女子バレーボール部。1年生ながら、正セッターとしてチームを牽引と導いた。

高校はスカウトされた宮城県の大宮高校、古川学園高校(宮城県大崎市)に進んだ。

「不安もあったが、精進するのは原点に戻っている。」卒業後の進路は筑波大に決めていた。バレー部が強いことはもちろん、勉学にも励みたいという思いがあった。

## バスケット

男子は16日の準決勝で白鷗大と対戦。間山隆(同3年)がフリースローで先取

点を挙げると、その後は点の取り合いとなった。47-46と筑波大がわずかにリードで折り返した。後半も速い試合展開と

タッカーを輝かせる黒子のような役割が自分に一番向いている」と感じたという。6年生で2度の全国準優勝を経験したが、いずれも優勝に一步届かず、悔しさが残った。中学は地元の仙北中学校に進学。一緒に全国を経験した仲間とは散り散りになった。3年時に主将を任せられると、「どうすれば自分の言葉でチームをまとめられるか」を考へるようになった。キャプテンシーが育まれ、チームを十数年ぶりに全国中学校体育大会(中総体)へ導くことができた。

高校はスカウトされた宮城県の大宮高校、古川学園高校(宮城県大崎市)に進んだ。

## インカレ男子3位 女子ベスト8 男子優秀選手に小川

大学日本一を決める全日本大学選手権(インカレ)が昨年12月4〜17日、太田市総合体育館(群馬県太田市)などで開催された。筑波大男子は決勝進出を逃したものの、3位決定戦で専修大に勝利した。小川敦也(体専3年)が優秀選手賞に選ばれた。女子はベスト8で終えた。(青野心平)

だったが、白鷗大が次第にポイントを重ね、筑波大は最大で15点差をつけられた。最終第4クォーターになって、小川のスリーポイントシュートやダンクシュートなどで猛追したが、76-84で敗れた。17日の3位決定戦では専修大と対戦。互いに堅い守りで、第1クォーターを7-9とロスコアで終えた。第2クォーターは専修大に主導権を握られ、一時10点差をつけられた。しかし、小林優(同4年)のスリーポイントシュートなどに追い上げ、24-26で前半を終えた。後半も二進一退の攻防が続いたが、第4クォーター終盤に横地聖真(同4年)や副島成翔(同1年)らが4連続ポイントを決めて47-40とリードを奪った。残り17秒で1点差まで詰め寄られたが、筑波大が50-48で逃げ切った。主将の三谷桂司朗(同4年)は「優勝を目指していたので、決勝に行けず悔しい。最後は勝って終わるぞという気持ちで3位決定戦に臨んだ」と振り返る。

吉田健司監督(体育系・准教授)は「昨季はゴール下のプレーが中心になり、留学生など大きい選手がいるチームに苦しんだ。今季は全ての選手がスリーポイントラインの外側からシュートやドライブインを狙うことを意識して練習した。最後はそれが体現できた試合になったと話した。

選手がBリーグのプロクラブに入団した。主将を務めた三谷桂司朗(体専4年)はBリーグ1部の広島ドラゴンフライズへ入団。小林優(同4年)はB1長崎ウエルカに特別指定選手として加入した。小川敦也(同3年)は同部を退部し、B1宇都宮ブレックスの特別指定選手となった。

### 新たに3人がBリーグへ

筑波大男子バスケットボール部に所属していた3

# 学内に「セーフスペース」設置

## 「性」について話せる場に

ジェンダーやセクシュアリティについて、プライバシーを守りながら話せる「セーフスペース」(人間系学系棟A110教室) = BHE 提供

「性」について話せる場に、100名以上の学生が参加した。ジェンダーやセクシュアリティについて、プライバシーを守りながら話せる「セーフスペース」(人間系学系棟A110教室) = BHE 提供



「セーフスペース」の一角。壁には虹の旗と「Imagine Our Future」の文字が飾られている。

# 留学生が筆文字や餅つき体験

## スチューデント・コモンズで



「ヨイショ」の掛け声とともに威勢よく餅をつく留学生ら(1月19日、1A棟前で) = 横山心咲撮影

「日本文化ウィーク」が1月16〜19日の4日間、スチューデント・コモンズ(A棟)で開催された。日本の正月文化を留学生に紹介し、学生同士の交流を深めた。

会場には「筑波大学池坊華道部」の生け花、芸術専門学群の学生が所属する「桐書藝団」の書道作品が展示され、書道体験も行われた。けん玉やこま回しなど日本の正月遊びのコーナーも常設され、留学生も日本人学生も楽しんだ。

16日に開催された筆文字アート体験は、一般社団法人「日本書道場」の師範資格を持つ篠田さゆりさんが講師に招かれた。二筆は筆ペンを使い、文字や絵を自由な発想で表現する。

17、18日には、国際協力機構筑波センター(JIC A筑波)の稲作研修でアフリカから来た研修員が栽培したコシヒカリが、約1200人の学生に無料で配られた。稲作研修はつくば機能植物インベシジョン

4年遅れの「入学式」3月に  
20年度入学生向け

コロナ禍で入学式が中止された2020年度の入学式を対象にした4年遅れの「入学式」が3月13日、大会館講堂で開かれる。主

全代会議長の林凛太郎さん(社3年)は「感染流行が落ち着いてきた今、20年度入学生が新入生歓迎活動などさまざまな行事を運営してくれたことに感謝し、学生生活の思い出の一つにしてほしい」と企画の意図を語った。(青野心平)

入退室自由、飲食物持ち込み可で、BHEの学生ピアスタッフや教職員がファシリテーターを務める。来場者は会場に用意されたジェンダー・セクシュアリティに関する書籍を読んだり、他の来場者やファシリテーターと話し合ったりすることが出来る。会話に加わらず、机で作業することも可能だ。

また、学生ピアスタッフの藤島充登さん(社4年)は「きてきての開設で安心できた」と話す参加者もいた。ジェンダー・セクシュアリティの当事者も、そうだと思う人も、ぜひ来てみてほしいと語った。(大吉ひなた)

英語が使える、それが英語の練習にもなります。二つ目は多民族国家だからです。基本的にはマレー系、中華系、インド系で構成されますが、その

書き順や筆を運ぶ方向に決まらぬ。参加者は篠田さんのレクチャーに従って、「風」や「道」などの漢字をほがきに描いた。最後はほんごを押すと、たった15分で味わいのある作品が完成し、約35人の参加者は喜びの表情を見せた。篠田さんは「絵や書道が苦手な人でも簡単に楽しめるのが魅力」と話す。プラザから来た医学学位プログラムの留学生は「日本のアートが体験できてとてもうれしい」と笑顔で語った。

「初めてだったが一番小さい杵を選んだので難しくなかった。素晴らしい経験ができた」と語った。同室の担当者は「書道に夢中になる留学生が現れるなど楽しんでほしい。今年度も学生のニーズに添えて国際交流イベントを企画していきたい。実施したい企画や要望がある学生はぜひ伝えてほしい」と話した。(横山心咲、大吉ひなた)

マレーシアでは幼稚園児の頃から英語を勉強し始める。人々が英語を話せる理由が分かりました。また、マレー系

入学式に準じた式次第に従って執り行われる。会場前には「入学式」の立て看板も用意され、自由に写真撮影できる。式に出席できるのは20年度入学の学群生・大学院生で、学群4年生(約2700人)の約4割程度の出席を見込んでいる。20年度入学生は、入学式以外にも、宿舍祭(やどかり祭)など新入生を対象とした行事を体験することができた。



# 多様な言語に触れる留学体験

イベントに参加したりして、留学生の友達をたくさん作りました。留学先にマレーシアを選んだ理由は二つです。一つ目は英語も公用語だからです。日常生活で

の他にもさまざまな言語を持つ人がいます。使われている言語もその民族によって異なります。民族が多様なため、食べ物も種類も豊富で、さまざまなものを一つの国で味わうことができます。



マレーシアの首都・クアラルンプールで = 本人提供

現地では2人1部屋の寮に住んでおり、ルームメイトはドイツ人の母とカナダ人の父を持つ学生です。毎日英語で会話するので、留学初期より英語力も上がりました。筑波大に戻ったら、留学の良さを周囲に伝えていきたいです。また、より多くの留学生と交流し、英語を学ぶ段階から使う段階にステップアップしていきます。(国際総合学類2年)

# 広告欄

掲載のお問い合わせは

shinbun@un.tsukuba.ac.jp

までお願いします。



# Who's Who?

## 「日韓みらいファクトリーアワード」企画者 ほづみ のりひと **寶積 應公** さん (社会学1年)



「人々が文化を通じて交流できる世界にしたい」と熱を込めて語る寶積さん(1月18日、T-ACT推進室で)

【11面参照】「たまたまそこに韓国があったから」。なぜ日韓交流に積極的なのかと聞くと、即答された。

日韓の若者がチームを組んで取り組む探究型国際交流プログラム「日韓みらいファクトリーアワード2023」を昨年企画した。「このプログラムが将来は日韓交流の新たなプラットフォームとなり、グローバル人材の育成や両国の交流の発展に

貢献できればうれしい」と語る。横浜市内の中高一貫校に進学し、中学3年時の1月からニュージーランドに留学した。韓国人の級友は日本製消しゴムを「一番消しやすいく」と愛用していた。昼休みには韓国のインスタントラーメンと一緒に食べた。「第三国のニュージーランドで国の枠組みを超えた多様な文化が共存し、受け入れられていることが面白かった」と語る。

## 広報文化外交で相互理解を 「国家公務員となり貢献したい」

国際交流基金や駐横浜大韓民国総領事館などの後援を得て、両国から20チーム計32人が参加する企画を2022年春に実現させた。同総領事館の韓相赫(ソム)氏は「(宝積)は実現を喜び、韓国と日本は良い隣人であり、一番仲の良い友達になれる。その未来の中心に皆様が一緒にいることを期待します」とメッセージを寄せた。

「卒業後は国家公務員として文化交流による国際理解の促進に従事し、日本と世界に貢献したい」と思いは熱い。(横山心咲)比較文化学類1年、写真も)

次号は  
**4月3日(水)**  
発行予定です

## 大学入学共通テスト実施



個人の判断でマスクを着用しながら本番に臨む受験生ら(1月13日、1H棟で) = 川上真生撮影

2面へ

## 応援部 WINS 「桐華祭」



息の合った応援で笑顔を届ける部員たち(1月20日、ノバホールで) = 加藤緑撮影

5面へ

## OUT IN JAPAN@ 筑波大学



性的マイノリティーの人々の肖像写真(1月18日、中央図書館で) = 横山心咲撮影

5面へ

## 天の川清掃プロジェクト



汚泥に潜む生き物を探す横井智之助教(左)ら(昨年12月7日、天の川下池で) = 結城希撮影

11面へ

### 編集後記

能登半島地震が発生したのは、青春18切符を使い、地元広島に向かっていった時でした。乗り継ぎ先のJR米原駅に着いたのは元日の午後7時過ぎ。北陸本線の運転見合わせを伝える案内の前には人だかりができて、破綻した持った人も。「災害は時を選ばない」と実感しました▼筑波大によれば、被災4県(福井・石川・富山・新潟)出身の学生は600人余り。編集部にも石川県出身者がいます。筑波大は実家が損壊するなどした被災学生に生活費支援や経済支援を実施すると発

表しました(1面)▼筑波大の共通テスト会場には、被災した親戚を気遣う受験生がいました(2面)。被災地を支援するため、筑波大からも医師や看護師が派遣されています(1面)▼今号から編集部が代替わりし、編集長となりました。人々の安心安全という視点は、災害対策のみならず、本紙にとっても大切です。在校生が発する小さな声にも耳を傾け、読者と共有し、一緒に考えていく。それが、より安心安全な学生生活にもつながる。こうした思いを忘れず、筑波大生に寄り添った紙面作りに取り組めます。(編集長・川上真生)社会学類2年

【編集・発行】  
筑波大学新聞編集委員会  
▼委員長 内海真生(生命環境系・教授)水環境生態工学  
▼副委員長 中澤秋夫(学生部長)▼委員 秋山肇(人文社会学系助教)▼秋山肇(人文社会学系助教)▼憲法・平和研究、嵯峨寿(体育系・准教授)レジャー・スポーツ産業論、時井真紀(図書館情報メディア系講師)情報表現・物性理論

【編集代表】嶋田公男(筑波大学・教授)サイエンスコミュニケーション

▼編集長 川上真生(社会学類2年)▼副編集長 山本貴世(国際総合学類1年)青野心平(第2類1年)ほか編集部員12人

発行所 筑波大学印刷工房